

第13回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成30年3月23日（金） 午前10時～11時45分

場 所：秋田市役所本庁舎6階 6-A会議室

委員の定数：13人

出席委員：10人

1 開会

2 議事

(1) エイジフレンドリーシティ指標の実績値について

資料1をもとに、事務局から説明を行った。

委 員 長	議事の(1)「エイジフレンドリーシティ指標の実績値について」ご意見やご質問等はないか。
委 員	指標を見るときに気を付けなければならないのは、団塊の世代の母数が一番大きく、今後も相対的にその母数が上がっていくということである。そのような中で、団塊の世代を対象としたような解析はしているものか。
事 務 局	現在のこの指標に関しては、そのような解析は行っていない。
委 員 長	データの中で、実績値、年代が分かるものはないのか。
事 務 局	中には、年代ごとに解析しているものもある。それぞれのデータの照会先で、年齢ごとにデータを出しているところもあり、今後は、各データに対して、年齢ごとに解析できるかについて検討していきたい。
委 員	指標4-5「地域サロン開催状況」については、年々増加しているということであるが、私の町内会では、老人クラブに替わって新たな会合が開かれており、社会福祉協議会から5千円の補助金が出ている。これは、市ではなく、社会福祉協議会へ登録すればよいのか。
委 員	この地域サロンについては、各地区社協単位で行っており、もし開催したい場合は、地区社協に対して声をかけてもらいたい。
委 員	指標1-2に高齢ドライバーの運転免許の自主返納を促すと記載されているが、車いすを利用している方などは、なかなかバスを利用できず、運転免許を返納できない方も多くいる。返納に踏み切れない方

の意見も少し取り入れてほしい。

また、指標6-1に高齢者が地域活動に参加している割合が56.9%と比較的高い数字が出ているが、ボランティア活動などには積極的に参加しているのに対して、町内会活動にはなかなか参加してくれない状況が見られる。町内活動に対して、市として指導してもらえないものか。

委員 町内活動などは、リーダーとなるような人材、役員を探すのが大変な状況であり、どこの地域も同じと思われる。

委員 私の地域では、老人クラブと婦人会が共同で行事を開催しているが、これからは、町内会もあわせた3団体が協力し合いながら取り組んでいきたいと考えている。

委員長 町内会の問題は非常に多岐にわたっているが、町内会という地域性のあるものと、市民参加とは少し違いがある。市民参加とは必ずしも地域に限らないが、町内会は地域のかかわりが非常に重要である。町内会という組織とNPOなどのいろんな組織を連携させていくことが必要になってくると思う。

委員 エイジフレンドリーシティの進捗状況を判断する上で、この指標の分析は重要であると思う。今後も、エイジフレンドリーシティとはどういったものなのかを目に見える形で、皆さんにお知らせする必要がある、引き続き広報活動に力を入れていただきたい。

また、エイジフレンドリーパートナー事業について、もう少し力を入れ、企業サイドからも取組を強化していけば、より効果的であると感じている。指標の結果によると、パートナー数も増加していることから、今後は、企業の実質的な取組が増加することで、効果も上がる、ということが一つのテーマになると思われる。いずれにしても、このように分かりやすく、数字できちんと評価し、まとめたことは大変良かったと思う。

委員長 今回の指標は、グラフ化して変化が分かるようにしたことで、どなたにとっても見やすいものとなった。

委員 8-1「秋田市の健康寿命と平均寿命」については、国や県の算出方法と、市の算出方法が違うということだが、この指標の結果と、先日の新聞報道にあった結果と開きがあるようだ。秋田市は最近の資料で、国や県の算出方法でいくと、どのような結果になるのか。

事務局 この数字は保健所に照会して出された数字であるが、健康寿命のデータについては、毎年出されているものではないため、直近で出せる

数字というものは今の段階では、ここに掲載している数字ということになる。

委員 先ほどの、団塊の世代についてだが、秋田県は特に、この世代の人数が多く、まさに私も団塊の世代である。団塊の世代と言えることは、諦めが早いということである。つまり、人数が多いことから税金や教育制度に至るまで、国の新制度のターゲットとなりやすく、「また税金が上がるのか」、といった諦めの気持ちから、他の人とのかかわりを持たずに暮らしている人が多いと思う。

そういったことから、町内会活動にしても、団塊の世代で先頭に立ってくれる人はいないのではないかと。気力も体力も衰えてくる団塊の世代の気持ちを底上げするような新たな施策がないと、町内会のような活動は成り立っていかないのではないかと思っている。

委員長 現在は、従来型の町内活動ではなく、個人化してきている。つまり、個人的な活動の充実には関心があるが、地域や町内活動に対する関心は従来とは違ってきている。町内会は任意団体のため、行政は深く関わるものではなく、どうやって活動を行っていくのかは住民たち自身が考えるのが基本である。これまでとは違った町内会の動きを団塊の世代の方たちがどう考えていくかが重要ではないか。

委員 高齢化率が上昇しているのにもかかわらず、老人クラブの会員が減少しているということは、何かそこには問題があるということが考えられる。エイジフレンドリーシティの実現を目指して、ソフト面やハード面などいろいろと考えられているが、そこに住んでいる方たちが、能動的に関わっていくことが、エイジフレンドリーシティの趣旨であると思う。住民の意識改革も含めて、行政として、組織をうまく維持していくような、組織づくりに対するアドバイスを行っていく必要もあるのではないかと。実際に、スポーツ科学センターでは総合型地域スポーツクラブを立ち上げようとしており、その組織づくりにあたり、センター職員が各地区に出向いて、会計や運営方法等についてアドバイスを行っている。そのクラブには高齢者から小学生までが所属し、様々な活動を行っていきこうとしている。老人クラブなども組織を維持できるよう、行政側はアドバイザー的なかかわりをしていく必要があるのではないかと。

委員 この指標の結果を広報などで特集を組んで、皆さんにお知らせするなど、周知したほうがいい。また、「地域の住みやすさランキング」というものがあるが、それには幸福度の指標があり、「モノの豊かさ」「心の豊かさ」のほかに「地域の豊かさ」によって測ることが大事であると考えている。「地域の豊かさ」とは地域のつながりがあって初めて住みやすいまちになっていくと思うので、エイジフレンドリーシ

委員 ティという、高齢者にやさしいまちをつくっていくためには、「地域の豊かさ」を前面に出していくことも一つの方法かと思う。

事務局 高齢者にとって一番の絆を作りやすいのが町内会である。泉地区の町内会のように素晴らしい活動をしているところと、役員のなり手がいなくて存在意義がなくなっている町内会もある。市には少しでも応援してもらえれば高齢者にとっては大変ありがたいと思う。

事務局 この指標は、実質的に何が進んでいるのかというものを測るもので、例えば、「近所を安心して外出できる高齢者の割合」というのは主観的にどう感じて地域に住んでいるのかという、先ほどの「地域の豊かさを」表現しているものと考えている。最初に指標を作るときに、それぞれの具体的な施策が進むことによって、指標の左側にある「豊かさ」が増えていくであろうという関連性で指標を設定していた。やはり指標は、数値を取ることが重要なのではなく、数値から見えることで何をやるべきかということを見える化することが大事であり、3年分のデータが取れたことで、今後、エイジフレンドリーシティの実現を目指し、行政として何に取り組むべきかという新しい施策の展開のためのデータになると考えている。

このデータから見える秋田市の現状に対して、皆様からの声を頂きたいので、市民の方にも分かりやすい形でお見せすることを来年度のテーマとしていきたい。

また、既存の組織である町内会や老人クラブ、民生児童委員など、様々な地域での活動は、人材不足・担い手不足というのが問題となっている一方、その他の市民活動などでは必ずしも人材不足といった状況ではないこともあり、行政としては頭を悩ませているところである。町内会であれば、市民生活部が担当部局であるが、庁内での共通課題として認識している。

先ほど、地域の活動が進んでいくよう、行政の支援があればいいというお話があったが、既存の組織の課題に対応する新しい形の活動をどのように進めていくかという中で、自分が一番フィットするものを選んでいくような選択の多様性というものも今後は必要であると考えている。

先日、全戸配布したエイジフレンドリーシティ通信をご覧いただくと、「住民が支え合う地域づくり」について掲載されているが、地縁組織だけに頼らずに新たに地域に根差した活動を生み出そうと、地域包括支援センターごとに「生活支援コーディネーター」を配置しているところである。

まだまだ、全市に展開してはいないが、既存の組織をいかに存続させていくかという課題に対応しつつ、こういった新たな活動と両輪で行っていかねばならないと考えているので、通信等を通じて、少しでも市民の皆さんにご紹介しつつ、市民活動を底上げしていくというのがエイジフレンドリーシティとしても必要であると考えている。

(2) 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画庁内推進会議の進捗状況について

資料2をもとに事務局から説明を行った。

委員 長	議事の(2)「秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画庁内推進会議の進捗状況について」ご意見やご質問等はないか。
委員	山梨での研修会に参加したときに、山梨では、民生児童委員の充足率が100%であるということを知った。山梨では民生児童委員は年齢に関係なく、頑張れるうちは活動を続けているということであるが、現在は健康寿命が上がっている中、年齢に関係なく、活動できるうちは頑張ってもらおうという仕組みにしていけないと、なかなか担い手不足の解消はできないのではないかと思う。
委員	県庁、市役所の職員等は60歳で定年を迎え、その後再任用などで引き続き勤めている方も多いと思うが、その第一線を退いてある程度時間的余裕がある人たちをもう少し動かす方法はないのか。行政の職員にはもう少し積極的に地域活動を行ってほしい。
事務局	行政としては、再任用、正職員にかかわらず、積極的に地域活動に参加するように、としているが、ルール化するまでには至っていない。行政職員が先頭を切って地域活動に参加していくとともに、市民のみならず、みなさん全員に「地域のことは自分事」というように考えていただくよう、底上げをしていかないと難しいのではないかと思う。その先頭でできるだけ行政の職員がなれるよう、引き続き担当課と連携していきたい。
委員	例年、市や県を退職する方を集めた説明会などで、民生児童委員が地域との関わりを持つように、といったことを説明していると聞いたが実際はどうか。
事務局	人事課で開催しており、内容について後日確認する。
委員	市を退職された方の中にも、民生児童委員の方もいるが、市としても職員個人に対して強制的に参加するよう促すのは難しいと思われるが、人事課に対して、なるべくそういったことも考慮するよう呼び掛けてみたい。
委員	知識と経験が十分ある、定年を迎えた行政職員には、元気なうちは地域のために貢献してほしい。
委員	ボランティアは楽しいものであるということを知っていただく必要がある。ボランティアは社会と共存でき、かつ自分を高めることができる。

	ということを知識として伝えるような風潮にならないと、なかなか町内活動には参加できないのではないか。
委員	日本では、ボランティアという考え方、思想があまりないように思われるが、昔から「情けは人の為ならず」という言葉がある。この気持ちが社会全体にとって必要なのではないか。
委員	ボランティアは高齢になったから急に始めるのではなく、もっと若い時から、そういった精神について教えていくことが必要である。
委員	町内会の組織づくりについて、もう少しきちんとした形で支援してくれるところがあると助かる。
委員	新たに町内会長になった方に対しては、市民生活部の方で研修会のようなものを行っているようであるが、詳細は後日確認し、お知らせする。
委員	ボランティア活動でも地域活動でも、人のためではなく、地域活動をすることによって、自分の住んでいる地域が良くなれば、いずれは自分にとってもいいことがある、というように意識を変えていかないと、なかなか参加する人はいないのではないか。

(3) 平成29年度事業報告および平成30年度の取組について

資料3をもとに事務局から説明を行った。

委員長	平成29年度事業報告および平成30年度の取組について、ご意見やご質問等はないか。
委員	エイジフレンドリーパートナー制度についてだが、現在、社会福祉法人は、地域の広域的な取組を行うように、ということになっており、社会福祉法人の目的とするもの以外の地域の活動を行った場合、パートナーに登録することはできるのか。
事務局	パートナー登録の対象とならないものとして、介護保険制度や法令に基づくもの、あるいは市や県から委託を受けて行っている事業などがあげられるが、それら以外のものであれば登録可能である。ただし、ケースバイケースのものが出てくる可能性もあるため、個別にご相談していきたい。
委員	建築業者は、パートナーに登録すると入札の際に加点されるということで、積極的に登録しているが、なかなか実際の取組が見えないと

ころもあり、何らかの形で、パートナーの取組が評価されるような仕組みがあれば、パートナーとなった企業の実態も伴って、エイジフレンドリーシティが進んでいくと思われるため、その点の仕組みについて検討して頂きたい。

(4) その他

事務局から次回の推進委員会の開催について事務連絡を行った。

3 閉会